

●国立航空宇宙博物館

まず、1番最初に国立航空宇宙博物館に行った。ここでは、1時間という短い時間でしたが、ライト兄弟の飛行機について学んだり、世界銀行にお勤めの諏訪さんから宇宙の展示についての解説を聞いた。実物を見ることで、宇宙という空間で起こっていることは全て現実だと確信させられるような気持ちになった。



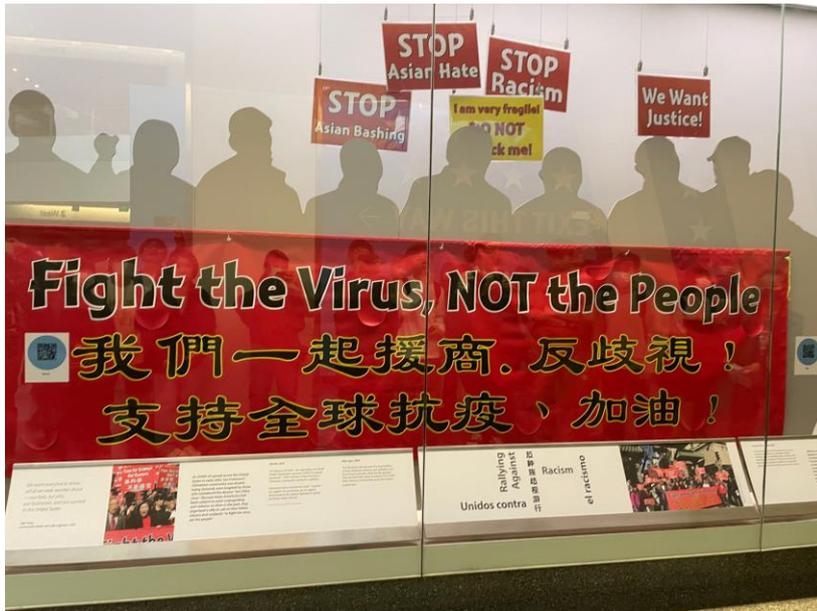
諏訪さんとの集合写真

●国立歴史博物館

この博物館の展示品は、約9割が寄贈によるもので構成されている。私たちが考えたことのひとつに、博物館の役割についてである。この博物館では、2、3年前に始まったコロナウイルスの感染拡大が起き、中国系アメリカ人の方が差別を受けたことに反対するデモを起こしたときに使われた旗を見ることができる。どうしてつい最近とも言える出来事に関するものが博物館に展示されているのか…それは、今の世界の状況を一般の人々に伝えるためだった。大きな博物館で展示する、ということは、多くの人の目に触れさせるということになる。多くの人に伝えたいメッセージを、確実に伝えるために、この博物館があるのだと思った。また、9.11で崩壊してしまったビルの骨組みなど、実際に被害を受けた現場から選ばれた展示品がたくさんあった。それは、当時の悲惨な状況を知らない若い世代に、昔起こってしまったことの残酷さや、2度と繰り返してはいけないという責任感を伝えるためなのだと思う。

他にも、エンターテインメントの発展の様子が見られるブースでは、マイケルジャクソンのベースやオバマ大統領をインタビューしたアナウンサーのスーツなど、アメリカの発展を異なる面から、細かく知ることができるようになっている場所だと感じた。このように、国立歴史博物館は一般とアメリカとを繋げる役割を担っている、と感じた。

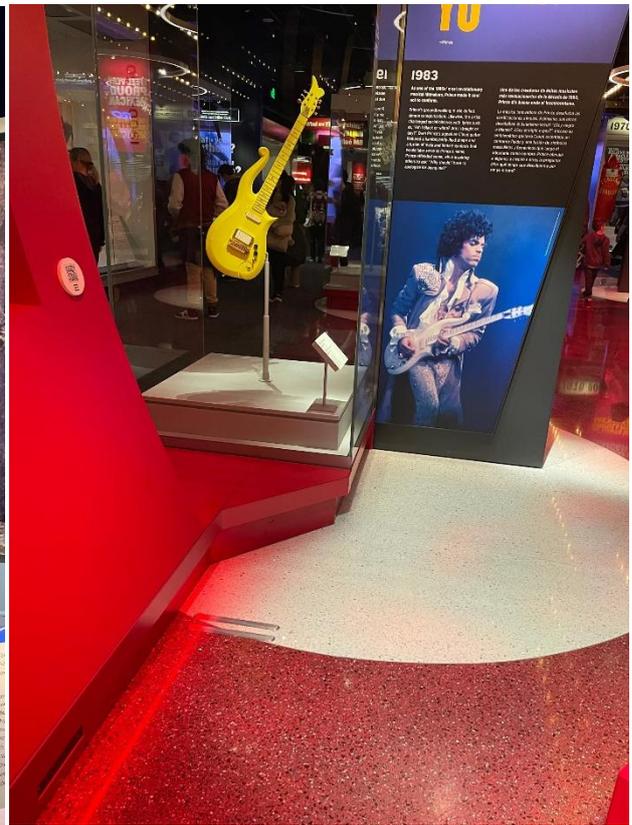
また、アメリカという戦勝国から見た第二次世界大戦とはどのようなものなのか、また、第二次世界大戦下での日系アメリカ人の活躍など、私たちが歴史として習ってきた視点とは異なる視点から見た第二次世界大戦は、とても新鮮だった。その他、歴代ファーストレディの方々が着用されたドレス類を見ることができ、楽しかった。



アジア系アメリカンのデモで使用されたもの



9.11で崩壊したビルの骨組み



マイケルジャクソンが使用していたベース



ファーストレディ着用のドレス

●ナショナルギャラリー

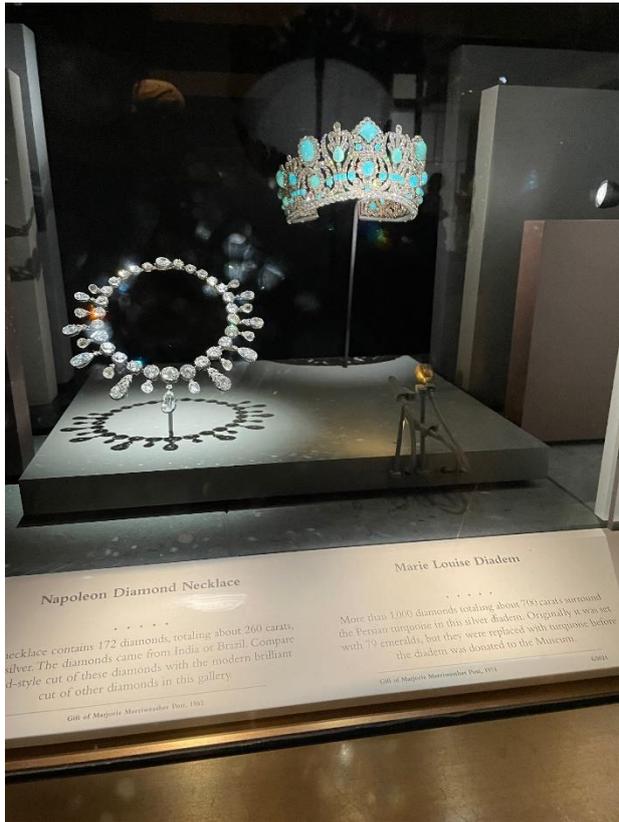
モネやゴッホ、ピカソの作品を含めたくさんの作品が年代ごとに置かれていた。圧倒的だと感じたのは作品の多さです。近世から、近代にかけて、絵の形態に変化が見られたのでとても面白かった。芸術の授業で調べた絵画が展示してあり、とても感慨深く感じた班員もいた。時代の流れに対応して絵が並べてあり、自分たちが歴史で習った時代背景と絵を比べることでその時代についてより深く考えることができたと思う。



ゴッホ



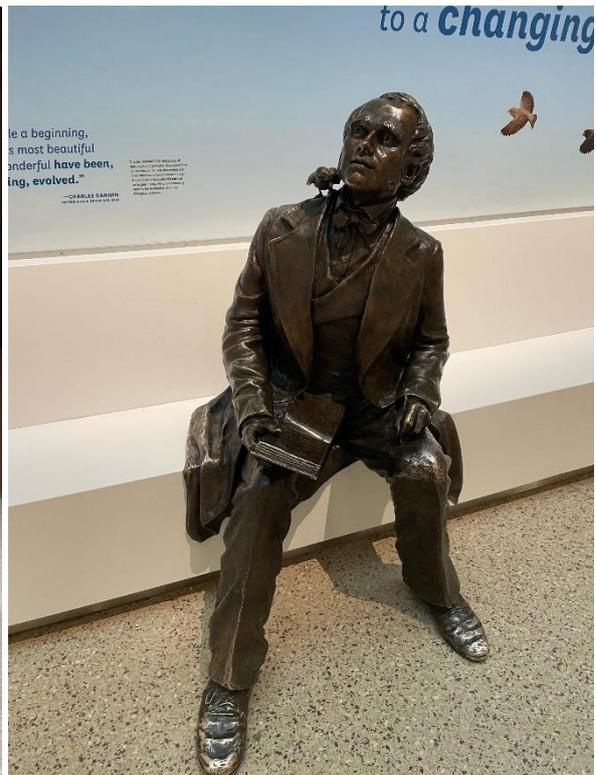
ピカソ



展示されていた宝石



ホープダイヤモンド



ダーウィンの像



展示されていた化石